ご報告する内容
① 5月17、18日のイベントに出展　来場のお礼
② リスクセンス推進に関する研究活動

2018年6月29日
リスクセンス推進研究会

① 化工日　主催の以下のイベント（5月17，18日　横浜パシフィコ）に
リスクセンス研究会は1ブース出展
同時開催「ケミカルマテリアルJapan2018」と
「化学物質管理ミーティング2018」

- 130人を超える来場者があり深謝
- 過3月10日に梅里さんが講演された内容
「リスクセンスで昨今の不祥事の予兆管理を！」の資料を
DF　技術部会「リスクセンス推進研究会」として配布
- 来場者へのフォローの例
㈱エルテス　社員がエルテス社の顧客向けのメニューの1つとして
リスクセンス診断法の活用に関心を持ってくださったので同社の監査
役をDFメンバー(高橋さん)が務めていることから当該監査役に、
その検討を依頼した

② リスクセンス推進に関する研究活動

・3月10日のフォーラムで梅里さんの発表内容に関心を
示した、化学産業分野のISO認証機関である
㈱日本化学キュウエイの玉田　社長と意見交換を実施（6月13日）

・横浜国大との共同研究：「社会リスク評価プラットフォーム構築」
社会リスク毎に、１１防護壁との関連を分析し、組織診断における
問題ある防護壁との関係から、損害発生しそうな社会リスクを推定。
防護壁の事前修復により、損害発生を防ぐ

・7月4，5日　安全工学シンポジウム（日本学術会議講堂）で
研究会メンバーが以下のパネルディスカッション（PD)、
オーガナイドセッション（OS)で　計　5名が発表
PD:安全教育と人材育成について
OS:組織と個人のリスクへのセンス向上手法

リスクセンスシステムの活用；

＊「リスクが顕在化しないような組織の健全性診断」
＊「不祥事の予兆管理、日産、神戸製鋼」
＊「将来発生しそうなリスクを推定し、顕在化を防ぐシステム」

＊１；クレーム・事故の発生原因から、常時監視すべき１１項目(防護壁)を決定。
＊２；自組織の健全性を、この１１項目で診断し、自組織で問題のある、劣化した防護壁を抽出。（修復する。）
＊３；不祥事の予兆管理の為に、１１項目(防護壁)に対する組織内での問題ある言動を中止し、顕在化する前に、問題を修復する。
＊４；想定されるすべてのリスク(地震、津波、台風、暴動など)に対し、リスク毎に１１項目(防護壁)の内から 関係する項目の表を作成（横国大の成果）。発生損害額を業種、規模などから関係者が推定、発生頻度を今まで公になっているデータから決める。
＊５；２項／４項の組み合わせにより、自組織の劣化した防護壁と、リスクに関係する防護壁から、顕在化しそうなリスクを抽出される。
＊６；顕在化しそうなリスクを防ぐために、自組織の防護壁を修復する。
修復すべき内容は：
なぜなぜ分析、ＶＴＡ法、Ｍ－ＳＨＥＬＬ法から決定。
理論的裏付けとして、「人」、「組織」「技術」の関連付けによる「安全知」の調査結果を活用する。